

平成18年度 一般会計当初予算

将来を見据えスリム化図る

見直し予算

県下で最初に合併した本町も、4度目の会計年度を迎えることになりました。これまでは「新町建設計画」に基づき急ピッチで一元化施策を推進してきましたが、国の構造改革による地方財政の三位一体の改革により、これまでの計画を大幅に見直さざるを得ない状況になっています。

この為、本町の平成18年度予算は、これらの地方財政を取り巻く環境を踏まえ、町民の福祉の実現と利便性を十分に配慮しつつも、見直すべき事業は見直し、削減すべき事業は削減することを意図した予算編成となっています。

本年度の主な事業

- * 継続事業で実施している「火葬場」が完成します。
- * 睦合小学校の屋内運動場を改築します。
- * 富河小学校・万沢中学校校舎の屋根を改修します。
- * 「道の駅」を改修します。
- * 中学生を対象にした歯科診療助成が追加スタートします。
- * 「児童手当」の支給対象児童の範囲が拡大されます。



火葬場建設予定地

財政メモ

平成18年度南部町一般会計当初予算は60億590万円となり、前年度と比べて3.7%減額した予算となっています。

この減額は、国の予算や地方交付税の算定基礎となる「地方財政計画」に準拠して、重複している事業の整理や事業実績に基づいた補助金の見直し、制度化された事業の軽量化などを図りながら、部内管理的経費の節減によって編成した結果でありますので、減額予算とはいえ町民への行政サービスの直接的な低下を招くものではありません。

これらの減量化策とともに、18年度予算においても起債額と起債償還費の収支が均衡していますので、19年度からの起債の激減を前提にしますと、償還費の後年度負担は一層軽減されるものと思われれます。また、本町の起債の大部分は元利償還費の70%以上が地方交付税で財源措置される良質な借金ですので、いわゆる硬直化した借金まみれの財務体質でないことは言うまでもありません。

また一方では、全国と同規模類似町村と比較してもトップクラスの多額な基金（34億9千3百万円：一般会計分のみ）を保有していますので、今後とも職員の退職により自然減となる人件費の圧縮や道路改良費の小規模化等々を考え合わせますと、後顧に憂いのない健全な財務体質を堅持していることが伺えます。

簡易水道特別会計は、平成19年度完了を目指して富沢地区簡易水道施設の整備を進めていますので、これまでに要した起債額の償還負担が今後懸念されるところです。この為、整備完了を期に使用料一元化の為の見直しとともに事務事業の民間一部委託などを検討することが重要な課題になるものと思われれます。

国民健康保険、老人保健、介護保険特別会計ですが、国の制度改正等によりその予算規模も年々拡大傾向にあります。本町においても人口の高齢化比率が高まることから予測されますので、今後ますます一般会計の財政負担も増加するものと思われれます。

これらの財政支出によって、制度改善とともに本町福祉行政の人的・物的・質的体制が整備されますので、将来にわたって町民一人一人がこぞって健康で快適な生活を営むことができるものと考えます。

歳入歳出 60億590万円

歳 出

(単位:千円)

科 目 別	歳 出	%
議 会 費	82,111	1
総 務 費	810,159	14
民 生 費	1,031,322	17
衛 生 費	1,150,338	19
農林水産業費	283,361	5
土 木 費	619,844	10
商 工 費	286,435	5
教 育 費	648,006	11
公 債 費	1,013,155	17
消 防 費 等	81,169	1

歳 入

(単位:千円)

科 目 名	歳 入	%
町 税	864,709	14
地 方 交 付 税	2,465,000	41
国 ・ 県 支 出 金	472,173	8
繰 入 金	221,632	4
町 債	1,088,300	18
譲 与 税 ・ 交 付 金 等	378,000	6
分担金・負担金・寄附金	88,715	2
使用料及び手数料等	132,123	2
繰 越 金	200,000	3
諸 収 入	95,248	2



改修予定の道の駅

(単位:千円)

起債未償還残高（平成19年3月末）	10,023,727
内 うち交付税措置分 71%相当	7,116,846
訳 うち町費負担分 A 29%相当 A	2,906,881
基金残高（一般会計分のみ） B	3,493,012
B - A C	586,131
町民1人あたりの基金保有額	57